

ミュージズ N0.14 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2004年11月

事務局：立命館大学国際平和ミュージアム

館長：安斎育郎

編集：山辺昌彦、山根和代

イラスト：戸崎恵理子

603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899 <http://www.ritsume.ac.jp>

全国の平和博物館、平和資料館などの活動について、お知らせします。平和博物館国際ネットワークのNewsletterがまだ発行されていませんので、こちらに入ってきているニュースをお知らせします。

第五回平和博物館国際会議

ミュージズ13号でお知らせしましたように、2005年5月1～6日までスペインのゲルニカ平和博物館で、第五回平和博物館国際会議が開催されます。

ゲルニカ平和博物館のホームページでは、博物館に関する情報、写真を見ることができます。

www.peacemuseumguernica.org

ゲルニカでは、1937年フランコ軍を支援するドイツ空軍の爆撃により、多くの市民が殺されました。それに衝撃を受けて描いたピカソの絵画が、有名です。ゲルニカ平和博物館では、過去の歴史に目を向けるだけでなく、現在、そして未来について考えることができるように展示をしています。

来年の国際会議には、世界で平和博物館運動がある唯一の国である日本の参加者が、

参加しやすいように、5月の連休に国際会議をするように配慮して下さいました。できるだけ多くの平和博物館関係者、平和研究者、これから平和博物館を創りたい方などが参加されることを願っています。なお連絡先は次の通りです。

Gernika Peace Museum Foundation
Foru Plaza, 1 E 48300 Gernika-Lumo

Tel: +34-94-627-0213

Fax: +34-94-625-8608

museoa@gernika-lumo.net



erico

海外のニュース

平和の家：コソボ

「平和の家」と呼ばれている家はルゴヴァ (Rugova) 山にあるドレイ (Drelaj) 村にありましたが、コソボ戦争で破壊されました。しかし 2002 年にシャラー家により、再建されました。アメリカ在住の英国人、アントニア・ヤング (Antonia Young) さんとコソボの環境保護団体の人々は、そこに平和を求めて松の木を植え、その家を「平和の家」と名付けました。それは、過去において平和のために活動をした一家に捧げられました。

平和の家では、環境に優しい旅行、農業、産業によって、持続可能な開発を支持し、平和と環境保護の活動をしています。

連絡先: Shtepia e Paqes, Drelaj - Peje, Kosove

Tel. + (377 44) 223 437 e-mail
shtepiaepaqes@hotmail.com



Drelaj – Rugova, Kosova, July 15th, 2003

「平和の家」の前にて

ソンム戦記念館：フランス

フランス北部のソンム (Somme) は、第一次、第二次大戦の時、激戦地でした。1916 年ソンムだけで、イギリス人、フランス人、ドイツ人が、百万人以上も殺されました。そこへ毎年約 20 万人の人々が訪問します。イギリス人のフランク・サンダーソン (Frank Sanderson) 氏が記念館を 1998 年に作り始め、6 年かかって完成しました。戦争を知らない世代に、過去の戦争を知らせる目的で創られました。戦争の展示は、イギリス、フランス、ドイツの視点で説明されています。

(Dr. Peter van den Dungen より送られてきた 9 月 27 日付けの The Independent の記事より)

オーストリア平和博物館

Wolfsegg のフランツ・ドイツ館長からお便りがありました。そのホームページのお知らせをします。

www.friedensmuseum.at.tf

「刀を鋤に」平和センター・美術館： デトロイト

10 月 9 日から来年の 1 月 8 日まで、彫刻家のジェイン・ノフケ (Jane Bunge Noffke) 氏の彫像の展示があります。「戦争中、そして平和な時に、女性がどのように人生を考えたのか」がテーマです。彼女は、芸術には社会と個人を変える大きな力があると考

えています。

(館報の Harbinger Summer 2004 より)

www.jbronze.com

Swords into Plowshares

Peace Center and Gallery

33 East Adams Avenue, Detroit,
MI 48226

(313) 963-7575

なお「戦争」という青銅の彫像は、平和博物館や平和美術館に移動展示物として貸し出します。この作品は、イラク戦争をテーマにしており、傷付いた子どもを抱いた母親と、傷付いたアメリカ兵からなっています。大きさは、70センチ、幅22センチ、奥行き15センチで、重さは45キロです。保証金、送料、保険代が、必要です。下記のホームページでその写真を見ることができます。

www.jbronze.com

地球の写真入りビーチボール：アメリカ

ワシントン州ベインブリッジアイランドの歴史博物館元館長のジェラルド・エルフェンダール (Gerald Elfendahl) 氏によると、宇宙から撮った地球の写真を載せたビーチボールがあります。(直径40センチ) また平和博物館などで展示できる大きいものもあります。地球を見ていると、世界は一つであり、平和の実現が重要であることを再認識させられます。次のホームページで、写真を見ることができます。

<http://www.earthball.com>

もし平和博物館や平和美術館などで入手したい場合は、下記の方に連絡を取って下さい。ミュージアムショップで扱うことも可能です。

Eric J. Morris, ORBIS director

PO Box 1148 Eastsound, WA 98245 USA

tel: 360.376.4320; cell: 206.550.4971

email: <eric@earthball.com>



武器を芸術作品に：カンボジア

カンボジアの平和芸術プロジェクトでは、武器から芸術作品や家具を作る活動に取り組んでいます。その作品展が、プノンペンのジャヴァギャラリーで9月29日から10月5日までおこなわれました。

なお作品は、購入することができます。連絡先：

PAPC

(www.peaceartprojectcambodia.org)

ラルフ・ラップ氏、亡くなる：アメリカ

原爆を開発し、その使用に反対してトルーマン大統領に訴えた物理学者のラルフ・ラップ氏が6月16日に亡くなりました。87歳でした。1958年に「第五福竜丸の航海」(Voyage of the Lucky Dragon)という本を出版し、放射能が人体に与える危険を知らせました。彼は早くから核実験に反対してきました。しかし彼は、原子力の平和利用としての電力は、安全であると強調をしました。

(10月11日付けのThe Times紙の“Ralph Lapp”による。Dr. Peter van den Dungenが、送って下さいました。)

て、展示しています。

Tel:0197-73-5876

仙台市歴史民俗資料館：宮城

企画展「戦争と庶民の暮らし」が、2004年7月17日～8月29日の会期で開かれました。

関連して、子ども講座が体験学習室で2004年7月24日に開かれ、紙芝居「青い目の人形」が上演されました。また、市民センター連携講座「戦争と庶民の暮らし」が、仙台市榴ヶ岡市民センター会議室で2004年8月21日に開かれました。

Tel: 022-295-3956

国内ネットワークのニュース

北上平和記念展示館：岩手

北上平和記念展示館が2004年4月27日、北上市和賀町藤根14-147-3の藤根生活センター内に開館しています。

同館には藤根小学校の教師をつとめ、退職後在郷軍人会の役員をしていて戦地の兵士向けに故郷通信『真友』を発行していた高橋峯次郎あての7000通余りの軍事郵便が収蔵されています。展示ではこの軍事郵便を中心に銃、衣服、教科書など約400点が展示されています。同館は高橋峯次郎あての軍事郵便を研究対象にした国立歴史民俗博物館の基幹研究「近現代の兵士の実像」を契機に開設され、その研究成果を踏まえ

太平洋戦史館

インドネシアのビアク島で、ごみの不法投棄が問題化していることがわかりました。この島では戦争中1万2000人の日本兵が戦死し、今も1万體以上の屍が放置されています。これまで現地で遺骨収集をし、また農業指導を進めてきましたが、環境支援も課題になっています。

(戦史館だより No.46 7月1日発行より)

Tel: 0197-52-3000

平和文化史料館・ゆきのした：福井県

「ゆきのした文化協会」は、福井豪雨の市民の被害を記録した特集号「記録 福井豪雨」を発行しました。7月18日の福井豪

雨当日の被災状況や復興の様子、ボランティア体験などをレポートしています。また約 200 枚の写真も掲載しました。

掲載写真は、流木やごみが集まった様子や土砂のかき出しなどマスコミで報じられたものだけでなく、病院、商店の休業やボランティアへのお礼を伝える張り紙など生活者の目で見た記録を重視しました。記念碑や地蔵など、見過ごされがちな文化財の被災も収録しています。

一冊千円。問い合わせは、同協会へ。

Kanpow No.149 (10 月 20 日発行)より

<http://kore/mitene.or.jp/~yukisita/>

yukisita@kore.mitene.or.jp

Tel & Fax: 0776-52-2169

埼玉県平和資料館

企画展「昭和前期の子どもたちと戦争 - 学校と遊び - 」が企画展示室で 2004 年 7 月 24 日～9 月 12 日の会期で開催されました。図録が作成されています。関連して、ワークショップ「おもいっきり昔の遊び！」が 8 月 15 日におこなわれました。

戦争体験者との交流会が 2004 年 7 月 17 日に開かれました。

映画会が講堂で開かれ、2004 年 4 月 10 日には「しんちゃんのさんりんしゃ」などが、6 月 12 日には「ちいちゃんのかげおくり」などが、7 月 10 日には「つるにのって」などが、9 月 11 日には「一つの花」などが、それぞれ上映されました。

特別映画会が講堂で開かれ、2004 年 5 月 1 日には「アンネの日記」が、8 月 14 日には「この子を残して」が、10 月 9 日には「黒

い雨」が、それぞれ上映されました。

戦争関連遺跡の見学会が 2004 年 10 月 2 日に開かれ、熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡を見学しました。

平和朗読会が講堂で 2004 年 6 月 5 日に開かれました。

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://village.infoweb.ne.jp/~pms>

丸木美術館：埼玉・東松山市

企画展「丸木位里・丸木俊作品展 - 《原爆の図》をめぐる絵画表現」が 2004 年 5 月 18 日から 9 月 3 日の会期で開催されました。

丸木位里の母親で素朴作家の丸木スマの代表作を展示する、企画展「丸木スマ展 - 不思議な色彩と表現の世界 - 」が 2004 年 9 月 7 日から 11 月 26 日の会期で開催されています。

(「財団法人原爆の図丸木美術館ニュース」79 号・2004 年 4 月 22 日発行、80 号・2004 年 7 月 23 日発行より)

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371

<http://www.aya.or.jp/~marukimsn>

蕨市立歴史民俗資料館：埼玉

第 15 回企画展「15 年戦争の記憶 - 節米と代用品の時代」が企画展示室で 2004 年 8 月 1 日～31 日の会期で開催されました。リーフレットが作成されています。

Tel:048-432-2477

上福岡市立歴史民俗資料館：埼玉

陸軍造兵廠川越製造所を取り上げた、企画展「造兵廠と戦争資料展示会」が2004年8月14日～9月12日の会期で開催されました。

関連して「歴史学習講座」が開かれ、8月22日に上福岡市文化財審議委員の大柴英雄さんが「陸軍造兵廠川越製造所の歴史」を、9月5日に市民の内田喜代治さんと高木文夫館長が「小学校に駐屯した本土防衛の武蔵部隊と軍隊への出征を語る」を、それぞれ話されました。

Tel:049-261-6065

福生市郷土資料室：東京

「平和のための戦争資料展」が2004年6月26日～9月26日の会期で開催されました。

関連して、講演会「兵士から見た日露戦争」が福生市立中央図書館2階会議室で2004年8月14日に開かれ、専修大学教授の新井勝紘さんが講演しました。また、「東大和市旧日立航空機変電所」の見学会が、2004年8月28日に開かれました。

Tel:0425-53-3111

女たちの戦争と平和資料館：東京

「女たちの戦争と平和資料館」建設運動
これまでとこれから

女たちの戦争と平和人権基金
事務局 吉田裕子

2002年12月に松井やよりさんが亡くなって、もうすぐ2年が経つ。松井さんの遺志を継いで始めた「女たちの戦争と平和資料館」建設運動には、その根底に5つの基本理念がある。1) ジェンダー正義の視点にたち、戦時性暴力に焦点をあてる、2) 加害責任を明確にする、3) 未来へ向けての活動の拠点にする、4) 国家権力とは無縁の民衆運動として建設・運営する、5) 国境を越えた連帯活動を推進する、の5点である。どれも重要な理念だが、これだけでは具体的な資料館のイメージは湧いてこない。建設委員会では今年4月から連続で公開学習会を開き、国内外の戦争と平和記念館の歴史と現状を学んできた。これは建設運動を多くの人々と共有するためにも有益な作業だったと思う。

梶村道子さん(ベルリン「女の会」)の第1回学習会「加害の歴史を忘れないドイツ～ベルリンに暮らして見えてきたこと～」(4月3日)では、「アクティブ・ミュージアム運動」を知った。それは、「加害の現場に追悼施設をつくり、市民がナチズムの歴史を学び、考え、行動するエンパワメントの場にしていこう」というドイツの民衆運動である。加害国でナチズムによる加害の記憶保存に取り組んできた人々の存在に、私たちは励まされた。

第2回(6月24日)は君塚仁彦さん(東京学芸大学)による「<歴史を逆なでする>博物館のこれまでとこれから」。戦争の加害に触れようとしない公的な戦争博物館に対し、民衆の視点で戦争や国家をとらえた「<歴史を逆なでする>博物館として、沖縄・伊江島の「ヌチドゥタカラの家」などの実例を紹介していただいた。

3回目(7月24日)では、南守夫さん(愛知教育大学)から「戦争のための戦争記念館と平和のための戦争記念館」をテーマに、日本では国立の歴史博物館では戦争の歴史を展示できないという現実を突きつけられ、改めて私たちの資料館の重要性を認識した。

4回目(8月31日)は石田勇治さん(東京大学)による「ナチズムが残した『負の遺産』と戦後ドイツの模索」。ドイツでの「過去の克服(過去の過ちを認め、教訓を導き出し、未来に生かそうとすること)」には個人レベルでは戦前の価値観が残存しているための困難はあったが、政府レベルでは積極的にこの問題に取り組んできたことを知り、日本との落差を実感した。

10月9日にはこれまでの集大成とも言える特別講演会「加害の歴史を記録する ドイツ・記憶の保存と「過去の克服」」を開催した。ドイツからナチスの加害の「記念の場所」建設と運営に長年関わってきたトーマス・ルッツさん(「テロルの地勢」財団)を招いたのである。「過去の克服」の具体的なプロセスや、ジェンダーの視点から加害の歴史を捉えることの難しさなど、実体験や活動に基づく示唆に富む話を聴くことが出来た。パネルディスカッションでは、元「慰安婦」被害者や関東大震災での朝鮮人大虐殺などの記録保存と「加害の歴史」を風化させない努力について、日本側のパネラーから報告があった。終了時間ぎりぎりまで活発な意見交換が行われ、大変充実した講演会だった。

こうして「女たちの戦争と平和資料館」の必要性と具体的なイメージがより明確になってきた。それはドイツ民衆の「アクティブ・ミュージアム運動」に共鳴しつつ、

ジェンダーの視点に立って、女性への性暴力という加害の事実を記録・保存・公開する資料館である。9月からは建設委員会に渡辺美奈事務局長が就任した。12月21日には東京・江戸東京博物館ホールでチャリティイベント「つながってつろう!暴力のない世界」を開催する。スペシャルトークに辛淑玉さん、高里鈴代さん(交渉中)を迎え、ミニ・コンサートでは「寿」、「ウリト」によるチャンゴ(韓国の太鼓)演奏を行う予定である。一人でも多くの方のご参加をお待ちしています。

「女たちの戦争と平和資料館」建設委員会
〒169-0073

東京都新宿区百人町 2-23-25 矯風会第二会館 203

TEL&FAX 03-3369-6866

メールアドレス info@wfphr.org

「女たちの戦争と平和資料館」建設委員会
ホームページ：<http://www.wfphr.org/>

第五福竜丸展示館

マーシャル諸島の人々の50年展(島田興制作)が、5月15日から6月27日まで行われました。水爆実験の被害の実情や人々の声を、写真で伝えました。(ホームページより)「福竜丸だより」No.309(6月1日発行)に、詳細が載っています。

Website: <http://d5f.org>

fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp

Tel: 03-3251-8494

高麗博物館

8月18日から10月3日まで企画展示「パネルと写真で見る関東大震災：朝鮮人虐殺と新聞報道」をしました。

高麗博物館は9階から7階へ移転することになりました。使用面積が2倍近くなり、パネルなどの収蔵室、小集会室、ビデオ・図書資料室が確保でき、事務と受け付けのスペースも広がります。

<http://www.40net.jp/~kourai/>

Tel&Fax: 03-5272-3510

ホロコースト教育資料センター

アウシュヴィッツで生き延びたハンナのお兄さん、ジョージ・ブレイディさん(76歳)が来日し、東京都と高知で2000人の子ども達にお話をしてくれました。ハンナについてホームページができました。

www.hanassuitcase.ca (英語のみ)

またホロコースト教育資料センターの連絡先は、次の通りです。

Tel: 03-5363-4808

holocaust@tokyo.email.ne.jp

www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo

東京大空襲・戦災資料センター

三階展示室脇に、「子どもたちと戦争」コーナーを設け、戦時下の子供たちの姿を展示しました。今年は、学童疎開から60年。関連文書とともに国の施策に先んじて行わ

れた東京都の戦時疎開学園のうち、赤坂区の沼津戦時疎開学園の写真や生徒日記等が展示されています。

資料センター入り口に世界のこどもの平和像完成から3周年の5月5日、像設置に関わった若者やサポーターの会のメンバーなど約70人が集まりました。像の後ろ側に銀色のスクリーンフェンスができ、この平和像にこめられた願いが刻まれました。

12月4日には、「都市空襲を考える」というシンポジウムが、深川江戸資料館で開催されます。

Tel: 03-5857-5631. Fax:03-5683-3326

<http://www9.ocn.ne.jp/~sensai/>

神奈川県立地球市民かながわプラザ

「パレスチナ難民の半世紀展 - 国連が支える難民の暮らし - 」が3階企画展示室で2004年7月29日～8月29日の会期で開催されました。

(「地球市民レポート」19号・2004年7月発行より)

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2945

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/plaza>

平塚市博物館：神奈川

平塚市博物館は2003年3月26日付で平塚の空襲と戦災を記録する会編『市民が探る平塚空襲 資料編(2)』を発行しました。これは3分冊の2冊目で、旧大野町八幡地区の戦災者調査書や第二海軍火薬廠に勤勞

動員で行った「麻布中学生徒の日記」などが収録されています。

Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

桜ヶ丘ミュージアム：愛知・豊川市

「豊川海軍工廠展」と「戦時資料シリーズ展 戦時下のポスター展」が2004年7月17日～8月31日の会期で開催されました。

Tel:0533-85-3775 Fax:0533-85-3776

松代大本営の保存をすすめる会

5月23日、マツシロ学習会で上越フィールドワークがおこなわれました。

見学地は「第13師団関係遺跡(師団長官舎/13師団衛門の柱)」と直江津港近くにある「直江津捕虜収容所跡地平和記念公園・展示館」です。

県内各地から21人が参加し、密度の濃い学習をしてきました。

直江津捕虜収容所跡 (東京捕虜収容所第4分所)

1942年12月にオーストラリア人300人が捕虜として収容され、国内で手薄になった労働力の代わりに兵器増産の労働を強いられたところ。劣悪な労働条件などから1943年3月から1944年2月にかけて60人の捕虜が病死。その後、英・米・蘭などの捕虜も収容され敗戦時には700人がいたそう。

敗戦後、収容所職員15名が捕虜虐待の罪

に問われて裁判にかけられ8名が有罪、死刑となった(法務死)。

その後、オーストラリアに無事帰った元捕虜がここを訪ねたことから、市民との交流が生まれ、平和記念公園となってオーストラリアとの友好の地となる。また、捕虜収容所の跡地に平和記念公園があることから、直接ここに収容されたわけではないが、日本を訪れる各国の元捕虜やその家族にとって心の傷を癒す場所にもなっているとのこと。

記念公園建設に最初から関わり、展示館を管理されている石塚正一さんご自身も捕虜体験を持ち、「国や自治体もそれぞれに取り組んでいるが、これからは民間の力が大切になってくる」と話されていた。

戦争遺跡と、当時を学ぶことのできる資料をそこに展示することにより、遺跡は平和の発信地として新しい使命を帯びることが改めてわかる。

長野市から82万円の助成金

長野市が、まちづくりに熱意やアイデアを持つ市民が自主的に実施する活動を資金面で応援しようというのがこの事業です。

NPO法人松代大本営平和祈念館が、この事業にエントリーし、「地下壕案内活動の基盤整備」で82万円の助成金を受けることになりました。

助成金は、ひとりでも歩いてわかるパンフレット1万部の作成、ガイド用携帯電話3台の設置、ガイド養成講座、ガイドのツール作成など、いずれもすすめる会との共同事業で活用されます。

祈念館の基本計画書作成中

(2004年度版)

建設実務プロジェクトチームでは、この間中断していた建設に向けた実務を再開し、これまでに作り上げてきた基本計画をこの間の情勢に合わせて見直しをはかり、2004

年度版の計画書（案）の作成を進めています。8月上旬までには作業を終え、関係する行政や地元との話し合いのテーブルに載せていく予定です。

(ホームページより)

<http://homepage3.nifty.com/kibonoie>
/Tel/Fax: 026-228-8415

安城市歴史博物館：愛知

企画展「戦争のなかに生きる - 戦時下の日常生活と明治航空基地」が2004年7月17日～9月5日の会期で開催されました。図録が刊行されています。

関連して、歴博講座「東海地方の戦争遺跡」が名古屋市見晴考古資料館学芸員の伊藤厚史さんを講師に2004年7月24日に、体験講座「戦争遺跡めぐり - 明治航空基地と依佐美送信所 - 」が安城市歴史博物館協議会委員の神谷友和さんを講師に8月1日に、企画展記念講演会「陸軍航空兵としての戦争体験」が元安城市長の岩月収二さんを講師に8月8日に、企画展記念講演会「『玉音放送』の知られざる実像」が戦史研究家の日比恒明さんを講師に8月14日に、歴博講座「戦争絵馬と戦争玩具」が安城市歴史博物館学芸員の斉藤弘之さんを講師に2004年8月29日に、歴博講座「戦時体制下の国民貯蓄運動 - 旧安城町の事例を中心に - 」が岐阜経済大学助教授の宇佐見正史さんを講師に2004年9月11日に、それぞれ開かれました。

Tel:0566-77-6655 Fax:0566-77-6600

静岡平和資料館をつくる会：静岡

4月9日から7月11日まで「短歌で読む戦争と静岡」という展示をしました。かつて短歌は愛好者が多く、あらゆる階層の文芸としてなじまれていました。カメラを持ち歩くことが困難な時代や状況にあって、短歌は戦争を記録する器として大きな意味をもっていました。展示では、長倉智恵雄さんの戦前・戦中・戦後の人生をたどりつつ、文芸としての短歌を歴史の記録装置として読み直してみました。

「幼子を死なせしことを詫びていう

妻の双手も焼けただれたり」

ニュースレターNo. 58より(5月15日発行)

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa>

Tel & Fax: 054-247-9641

浅井町歴史民俗資料館：滋賀

2004年度企画展「終戦記念展 - 父帰る戦争の記憶」が、2004年7月24日～9月12日の会期で開催されました。昨年に続く戦争関係の企画展です。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755

銅鐸博物館：滋賀・野洲市

夏期テーマ展「戦争と人びとの暮らし」がエントランスホールで、2004年7月3日～9月5日の会期で開催されました。リーフレットがつくられています。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755

栗東歴史民俗博物館：滋賀

「平和のいしずえ 2004」が特別展示室で2004年7月24日～9月5日の会期で開催されました。14回目の今年は日露戦争が中心で、学童疎開なども取り上げた展示会でした。図録も刊行しています。

関連して、学童疎開関係の戦争遺跡見学会を8月18日に開き、学芸員や芦原国民学校、逢坂国民学校の疎開経験者の案内で、大阪国際平和センターと、芦原国民学校跡地、逢坂国民学校跡地を訪ねました。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755

立命館大学国際平和ミュージアム：京都

特別展「銀のしづく降る降る - 知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界 - 」が1階の中野記念ホールで2004年5月15日～6月13日の会期で開催されました。開会初日の5月15日に記念講演会・口演会が立命館大学創思館カンファレンスルームで開かれ、北海道大学教授の小野有五さんが「知里幸恵について」と題して、知里森舎代表の知里むつみさんが「自由の天地を求めて」と題して、それぞれ講演し、千歳アイヌ文化伝承保存会会長の中本ムツ子さんと孫の中本玲菜さんがカムイユカラとウボボを歌いました。

日本ビジュアル・ジャーナリスト協会所属写真家らの写真とパレスチナ難民の遺品などを展示する、特別展「岩波フォト・ドキュメント完結記念『世界の戦場から』写真展」が1階の中野記念ホールで2004年6月22日～7月22日の会期で開催され、後に立命館大学琵琶湖草津キャンパスエポック立命21エポックホールで2004年10月

1日～28日の会期で開催されました。記念講演会は、7月1日に立命館大学衣笠キャンパス明学館4階96号教室で開かれ豊田直巳さんが、10月14日に立命館大学琵琶湖草津キャンパス、コーニングハウス2階201教室で開かれ広河隆一さんが、それぞれ講演しました。

特別展「世界報道写真展2004」が1階の中野記念ホールで2004年9月29日～10月24日の会期で開催され、続けて大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学の本部棟2階コンベンションホールで10月28日～11月19日の会期で開かれています。

映画会「KT」上映会が2004年7月3日に、映画会「ホテル・ハイビスカス」上映会が10月16日に、いずれも立命館大学以学館1号ホールで開かれ、監督と館長との対談もおこなわれました。

丹波マンガン記念館：京都

第3回特別展「朝鮮の被差別民衆『白丁』と衡平社運動」が2004年7月25日～8月29日の会期で開催されました。

Tel:0771-54-0046 Fax:0771-54-0234

向日市文化博物館：京都

1995年以来毎年夏に「くらしのなかの戦争」・「戦時下のくらし展」を開催してきていますが、15年争関係の軍装品や教科書などとともに日露戦争関係の軍事郵便を展示する、ラウンジ展示「くらしのなかの戦争」が、2004年8月14日～9月29日の会

期で開かれました。

Tel:075-931-1182 Fax:075-931-1121

大山崎町歴史民俗資料館：京都

楠木正成・正行父子に関連する「桜井の駅」関係資料を展示する、小企画展第6回「平和のいしずえ」が、2004年8月10日～22日の会期で開かれました。

Tel:075-952-6288

日吉町郷土資料館：京都

遺族会からの寄贈品などを展示する、収蔵品展「戦争が遺したもの」が、2004年7月17日～9月23日の会期で開催されました。図録が刊行されています。

関連して、「ひよしの空襲を語る」がかやぶき民家で2004年7月24日に開かれました。

Tel & Fax:0771-72-1130

大阪国際平和センター（ピースおおさか）

国連広報センター、日本小型武器対策支援チームやジャーナリストの下村靖樹さんの協力により、特別展「武器よさらば展 - 小型武器と子ども兵士 - 」が、1階特別展示室で2004年5月25日～7月21日の会期で開催されました。

特別展「ヒロシマの祈り」展が1階特別展示室で開催され、第一部「サダコと折り

鶴 - 時を超えた生命の伝言 - 」が7月29日～8月11日の会期で、第二部「ヒロシマ原爆展」が8月14日～9月12日の会期で、それぞれおこなわれました。

ベトナム・ホーチミン市にある戦争証跡博物館主催による子ども絵画コンクールの作品200点や石川文洋さんの写真20点、枯葉剤の後遺症の写真26点を展示する、特別展「ベトナムの子どもたちの平和の絵原画展」が、1階特別展示室で9月21日～11月28日の会期で開催されています。関連事業として国際シンポジウム「ベトナムと日本 - アジア・世界の平和構築のため私たちにできること - 」が2004年9月25日に1階講堂で開催され、作家の小田実さん、戦争証跡博物館館長のゲン・カー・ランさんが報告しました。

「8.15 終戦の日 平和祈念事業」として、また特別展「ヒロシマの祈り」展の関連事業として「ヒロシマからのメッセージ」がおこなわれ、いずれも1階講堂において、2004年8月14日に被爆者の中園芳子さんが証言をし、8月15日に核兵器廃絶をめざすヒロシマの会共同代表の森滝春子さんが「イラク戦争と劣化ウラン弾」と題して講演しました。

「21世紀の平和を考えるセミナー」は、第11回として朝日新聞編集委員の松本仁一さんによる「カラシニエフ銃と子ども兵士」が2004年6月19日に、第12回として大阪市立大学教授の朴一さんによる「東アジアにおける平和構築の課題 - 朝鮮半島情勢をめぐる - 」が9月4日に、それぞれ1階講堂で開催されました。

第10回「21世紀の平和を考えるセミナ

一」での長有紀枝さんの講演「平和と人道支援をめぐる市民・NGOの役割」を収録した講演録が発行されました。

フィールドワーク「港区空襲のあとを訪ねる」が2004年6月6日に関西大学名誉教授の小山仁示さんらの案内で開かれました。

「教員のための『平和学習』講座」が開催され、2004年7月21日には小山仁示さんが「大阪大空襲をなぜ伝えるか、大阪大空襲をどう伝えるか」と題して、7月22日には大阪女学院大学助教授の奥本京子さんが「子どもたちに平和をどう伝えるか」と題して、また毎日新聞記者の栗田慎一さんが「世界の今をどう伝えるか」と題して、それぞれ話されました。

「21世紀の子どもたちへおくる平和のつどい」が1階講堂で開催され、2004年7月21日には人形劇団の「みのむし」おたのしみ劇場がおこなわれ、27日～30日にかけて「夏休みアニメ特集」がおこなわれ、27日には「おかあちゃんごめんね」「一つの花」「お星さまのレール」が、28日には「おかあさんの木」「つるにのって」「対馬丸」が、29日には「さようならカバくん」「ながさきの子うま」「はだしのゲン」が、30日には「おこりじぞう」「魚が空をとんだよ」「火の雨がふる」が、それぞれ上映されました。

「守山俊吾のピースフルコンサート」が1階講堂で10月10日に開催されました。

大阪府の委託を受けて、大阪国際平和センターは大阪空襲死没者名簿の編纂事業をおこなってきました。2004年3月末で終了し、8658人の名前を特定し、公開を希望しない人を除く8608人の名簿がA展示室で公開されています。

この名簿の作成を機に、大阪国際平和センターはこの名簿を収納し空襲犠牲者を追悼するとともに恒久平和を祈念するために、戦後60年にあたる2005年8月の完成を目途に、平和を願うモニュメントを設置することになり、2000万円の目標で2004年5月から募金に取り組んでいます。

(大阪国際センター「ピースおおさか」32号・2004年9月30日発行より)

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.mydome.or.jp/peace>

吹田市平和祈念資料室：大阪

企画展「写真展 海底の鎮魂歌 - 太平洋に眠る沈没船に捧ぐ - 」が、吹田市民会館6階で2004年8月24日～9月5日の会期で開催されました。

「平和映画会」を毎月開催していますが、2004年5月は1977年ソ連映画「レニングラード攻防戦」を8・9・22・23日に、6月は1990年アメリカ映画「メンフィズ・ベル」を12・13・26・27日に、7月は1959年西ドイツ映画「橋」を10・11・24・25日に、8月は1986年日本のアニメ映画「100ばんめのさる」と1930年日本のアニメ映画「煙突屋ペロー」を21・22・28・29日に、9月は1987年日本映画「原爆の子」を11・12・25・26日に、10月は1949年イタリア映画「ストロンボリ」を9・10・23・24日に、それぞれ上映しました。

Tel:06-6387-2593

堺市立平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム):大阪

特別展「アジアの子どもたちの絵日記」が堺市教育文化センター図書館棟1階の小ギャラリーで2004年11月5日～14日にかけて開催されています。

Tel: 072-270-8150 Fax: 072-270-8159

箕面市立郷土資料館：大阪

戦時生活資料展が第1展示室生活資料コーナーで、2004年7月28日～8月22日の会期で開催されました。

Tel:072-723-2235 Fax:072-724-9694

姫路市平和資料館：兵庫

「非核平和展」が2階展示室で2004年7月19日から8月29日の会期で開催されました。

関連して、「平和を共に歌う合唱コンサート」が8月1日に館内で姫路バルナソス合唱団と姫路市児童合唱団の参加により開かれました。「被爆者体験談」として8月8日に館内で首藤好美さんが話されました。

企画展「戦時下に生きた女性たち」が2階展示室で2004年10月8日から12月23日の会期で開催されています。

関連して、「すいとん試食会」が10月26日に開かれました。また「姫路空襲体験談」として11月3日に黒田権大さんが話されました。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

広島平和記念資料館

2004年度第1回企画展「動員学徒 - 失われた子どもたちの明日」が、東館地下1階の展示室(5)で2004年7月16日～12月15日の会期で開催されています。

(広島平和文化センター「平和文化」153号・2004年6月1日発行より)

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/peacesite/>

hpcf@pcf.city.hiroshima.jp

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

2004年度の企画展「しまっぺはいけな記憶 - 体験記にみる救護・救援活動」が、地下1階の情報展示コーナーで2004年4月1日～2005年3月31日の会期で開催されています。

(広島平和文化センター「平和文化」153号・2004年6月1日発行より)

Tel:082-543-6271 Fax:082-543-6273

<http://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/>

高松市市民文化センター平和記念室：香川

「高松空襲写真・パネル展」が高松市市民文化センター1階ロビーで2004年6月29日～7月4日の会期で開催されました。

第14回「高松市戦争遺品展」が高松市役所1階市民ホールで8月2日～6日の会期で開催されました。

「憲法記念平和映画祭」が高松市市民文化センター3階講堂で5月29日に開かれ、ドキュメンタリー「明日への伝言 - 雨に濡れた碑」とドキュメンタリー・アニメーション

ョン「象のいない動物園」を上映し、香川県原爆被害者の会事務局次長の山田悌二さんが「原爆被害者からみた原爆被害について」を話されました。

「平和祈念映画祭」が高松市市民文化センター3階講堂で8月26日に開かれ、「明日への伝言 - 雨に濡れた碑」と「ムッチャんの詩」を上映しました。

「平和を語るつどい」が高松市市民文化センター3階講堂で9月12日に開かれ、劇団マグダレーナが「SANUKI特攻隊 - 陸軍高松飛行場秘話 - 」を演じました。

(「平和記念室だより」16号・2004年10月発行より)

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7981

<http://www.city.takamatu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/sbsenter/heiwa.htm>.

平和資料館「草の家」：高知

金英丸

平和資料館・草の家が事務局を務めている夏の平和行事「2004ピースウェイブ in 高知」が6月26日から8月29日まで開催されました。

今年のピースウェイブは森瀧春子氏(核兵器廃絶をめざすヒロシマの会共同代表)の講演会、「イラク侵略と劣化ウラン弾」から始まりました。今年、26回を迎えた戦争と平和を考える資料展は 高知空襲展、

イラク・パレスチナ侵略写真展 中国侵略展、 高知とビキニ展など4つのテーマの下で展示が行われました。

他に、第22回平和七夕まつり、第8回ピースウォーク in こうち、高知空襲犠牲者追悼集会、第21回反核平和コンサート、

第21回平和映画祭、第10回平和演劇祭、第21回平和美術展、第5回平和のための子どもの集いなどの多彩な平和関連行事がありました。

特に、第10回アジアの人々と連帯する市民の集いでは「東アジアの歴史と平和を考えるシンポジウム」が大学生や若者によって企画され、中国、在日朝鮮人、韓国、インドネシアの若者が、戦後世代の戦争責任や各国の歴史教育と歴史認識に対して活発な議論を持ちました。

第11回草の家小劇場では「草の根平和構築の可能性：内戦終結後のスーダンから考える」をテーマに栗本英世さん(大阪大学大学院教授)の講演が行われ、アフリカの内戦と平和の問題を考えるきっかけになりました。

高知出身の反戦革命詩人・槇村浩の命日に毎年行われる「槇村浩祭」が9月3日、草の家で開かれました。詩の朗読や詩人、猪野睦さんの講演「アジアのなかの槇村浩」が行われました。

草の家の故西森茂夫館長が、一生その研究・普及に尽くし続けた槇村浩。今年は韓国で槇村浩の反戦・平和運動が注目を浴びるようになった意味の深い年になりました。

去る7月の1週間、韓国の撮影陣が高知を訪れ、草の家を中心に槇村浩に関するドキュメンタリーを撮影しました。その後、韓国では槇村浩に焦点を当てた8月15日の「光復節」特集ドキュメンタリー「平和主義者の肖像」が、京仁放送を通して放映されました。故西森館長は病床でインタビューに答え、氣力をふりしぼって槇村浩への

深い想いを語りました。この日は「平和主義者の肖像」の上映も行われました。

「草の家」との連帯を深めている韓国忠州環境運動連合の朴一善（パク イル ソン、Park Il Sun）さんが、4回目に来館しました。今回は松山にある四国唯一の朝鮮学校、「四国朝鮮初中級学校」の子どもたちに、韓国市民の支援で集めた子どもの本、約

100冊を草の家の岡村副館長と一緒に寄贈しました。

9月11日、「NO MORE WAR! 9・11集会高知」が草の家で開催されました。第3世界に対する侵略を繰り返してきたアメリカを照らしたドキュメンタリー映画「テロリストは誰？」の上映会、「語りましょう！戦争を、平和を、希望を！」、ピースライブなどが行われました。

“イラクからの自衛隊・占領軍の撤退”を訴える反戦市民行動は、いまでも毎週一回、高知の帯屋町で続いています。

鳴門市ドイツ館：徳島

館報第9号（6月20日）には、ドイツ兵俘虜の日記が紹介されています。ルートヴィヒ・ヴィーティングさんの「第一次世界大戦：1914年夏と秋」と「日本1914-1920年」の日記です。「四国の丸亀にある寺院では、すし詰め状態の生活をした。気分転換になるここから出る唯一の機会は、高松に診療室のある歯医者に通う時だけだった。それで当然、大勢の俘虜がしょっちゅう歯

痛を訴えることになった」など、書かれています。

<http://www.city.naruto.tokushima.jp/germanhouse>.

doitukan@city.naruto.tokushima.jp

Tel: 088-689-0099

長崎原爆資料館

「よう子ちゃん人形展 - 原爆で子どもをなくした夫婦の物語 - 」が地下2階の企画展示室で2004年5月25日～8月31日の会期で開催されました。

「石田寿写真形展」が地下2階の企画展示室で2004年10月5日～12月26日の会期で開催されています。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

開館1周年を記念して「追悼平和祈念ランウジコンサート」が2004年7月10日に開かれ、ギターリスト山口修さんが演奏して、妻の純子さんが黒人霊歌などを歌いました。

Tel:095-814-0055

沖縄県平和祈念資料館

第5回特別企画展「寄贈・寄託品展 - 語りかける歴史の証言者たち - 」が、企画展示室で2004年10月1日～12月19日の会期で開催されています。その後、分館であ

る八重山平和祈念資料館で2005年1月11日～2月27日の会期で開催されます。

沖縄県平和祈念資料館の子どもプロセス展示室では、企画展「子どもたちと沖縄戦」を2003年6月3日～7月18日の会期で、企画展「沖縄平和賞受賞者中村哲氏の活動」を9月16日～10月11日の会期で、それぞれ開催しました。

(「沖縄県平和祈念資料館だより」7号・2004年7月23日発行より)

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-musem.pref.okinawa.jp>

ひめゆり平和祈念資料館

4月13日にリニューアルオープンしました。その際、展示解説文の原稿をすべて体験者が執筆しました。そうすることによって、戦場で起きた事実が後世にきちんと伝えられるだけでなく、体験者の思いがしっかりと反映された展示になることを目指しました。(資料館便り第33号:5月30日発行より)

TEL 098-997-2100・2101

FAX 098-997-2102

URL <http://www.himeyuri.or.jp/>

対馬丸記念館：沖縄

かねてから建設していた対馬丸記念館が2004年8月22日に開館しました。(詳細は、次の記事を御覧下さい。

Tel & Fax:098-941-3515

「対馬丸記念館」にお越しく下さい

その (全2回)

財団法人対馬丸記念会専門員 吉川由紀

今年八月二十二日、沖縄県那覇市若狭に「対馬丸記念館」が開館しました。六〇年前に発生した対馬丸撃沈事件を歴史の中に記録し、今を生きる私たちがその事実に学び、未来へと教訓を語り継ぐための拠点になることを目指しています。

(1) 記念館建設の経緯

今から七年前、鹿児島県はトカラ列島悪石島の沖合十キロメートルの海底から、沈没した対馬丸の船体が発見されました。対馬丸の遺族たちは船体の引き揚げを強く求めました。対馬丸は撃沈されたのが夜十時過ぎという遅い時間だったため、乗船していた多くの人々、とりわけ学童集団疎開で乗り込んでいた八百名を越す学童などは、船倉に設置された棚の中で眠っていたのです。魚雷命中から十分あまり、乗船者は脱出する暇もなく船とともに海底へと沈められました。太陽の光も届かない深さ八百七十メートルの冷たい海の底に、大切な家族がいることに堪えられない遺族たちは、船体を引き上げてせめて骨だけでも拾ってあげたいと考えたのです。しかし政府は調査の結果、これを不可能としました。そして遺族への慰藉事業として、全額国庫補助による対馬丸記念館の建設を提案したのです。

対馬丸遭難者遺族会では当初、建設に反対する声もあったといえます。それは、国・沖縄県・那覇市のいずれもが、建設後の運

営に一切関与しないと云ったからです。高齢化した遺族がこの施設を維持・運営していくことが出来るのか、結局「箱もの」を造るだけではないのか、議論が続きました。それでもやはり建設に踏み切ったのは「対馬丸撃沈という事実を歴史の中に埋もれさせてはならない、どうしても語り継いでいかななくてはならない」という、残された遺族たちの強い思いがあったからだそうです。二〇〇一年七月、遺族会は財団法人へと組織移行し、建設のために動き始めました。

(2) 資料の収集

私は昨年五月、この財団法人対馬丸記念会に入りました。「遺品や遺影を集めるための窓口的な存在に」というのが、当初課せられた役割でした。しかしこの時点で、内部では撃沈事件について資料に基づいた研究や分析がされていませんでした。

そこで遺品や遺影を集める前に、まず対馬丸に関する文献はもちろん、戦時遭難船舶や沖縄県の疎開に関する研究論文などを読み、その註釈で挙げられている資料の調査を始めることにしました。記念館を単なる慰霊施設にしないで、事件の背景を知り、本質を見抜き、今につながる学習にしていくなには資料に語らせることが不可欠と考えたからです。従来言われてきた「沖縄戦の三大悲劇」の一つ「対馬丸」の、何が「悲劇」なのかという点で、多くの乗船者が亡くなったということ以外に見出すべき教訓が多くあるように思いました。

資料収集では大変多くの皆様にご協力いただきました。私はアメリカに一度も行ったことはありませんが、米海軍資料を先生方から提供いただき思いのほか情報が集ま

りましたし、対馬丸の航路予測図を制作していただいたり、対馬丸事件の背景となった民間船舶の被害状況についてデータをいただいたりしました。対馬丸は、事件の重大性から戦後多くの人々によってさまざまな切り口で研究されていました。それが、記念館建設で情報を集約する場所ができ「対馬丸」という共通項で情報が集まってきたのです。

しかし、資料はあまり多くありませんでした。「対馬丸」後の十・十空襲（一九四四年十月十日那覇市を始めとする都市部と軍事施設への空襲）や翌年の沖縄戦で、沖縄は地形が変わるほどの攻撃を受け、形あるもののほとんどが失われました。紙類の一切は焼け、残りませんでした。そのため資料と呼べるものが少なく、県民の疎開があの当時どんな手順で行われたのか、明らかに出来ないのです。また、事件後生存者には「箝口令」がしかれ、撃沈の事実を一切語れない時間が長く続き、被害の詳細調査は全くといっていいほどされませんでした。現代では考えられないことですが、対馬丸事件を科学的に明らかにするなど不可能に近い作業だったのです。（次号に続く）

対馬丸撃沈事件とは

太平洋戦争下の1944年7月、次は沖縄が戦場になると予測した軍部の要請によって、政府は奄美大島、徳之島、沖縄県の戦力にならない民間人を本土と台湾に疎開させることを決定、沖縄・鹿児島両県に通達した。一般県民の疎開とあわせて学童集団疎開が実施され、対馬丸にはそれらの疎開者と船員・兵員1,788名が乗船していた。8月21日夕方、対馬丸は和浦丸・暁空丸と那

覇港を出港、長崎を目指したが、その途上トカラ列島悪石島沖で米潜水艦ボーフィンの魚雷攻撃を受け沈没してしまう。学童775名を含む1,418名（氏名判明者数）が犠牲となった。（きぼうの家のホームページより）

第8回戦争遺跡保存全国シンポジウム館山大会開催さる

戦跡ネット事務局

第8回戦跡保存全国シンポジウム館山大会が8月21日から22日まで、千葉県館山市で開催されました。シンポジウムの前後に南房総の戦争遺跡を見るフィールドワークを実施し延べ4日間の大会となりました。昨年の宇佐大会に続いて、地元館山市の共催を得て全国から450名が集い盛況裏に終了しました。長野県からは、松本11名、長野8名が参加し、全国の皆さんとの交流など楽しく学んできました。

南房総は、帝都防衛の東京湾要塞や本土決戦準備の基地でした。要塞の砲台や弾薬庫、海軍の特攻基地、航空隊、砲術学校などの戦跡、米国占領軍の本土上陸地で本土で唯一の「直接軍政」が行われた場所でした。

「南房総に戦争の傷跡を見て保存と活用を考える」をテーマにしたシンポジウムは、基調報告、地域報告、従来の3分科会、地元の体験者の証言などの特別分科会、作家早乙女勝元さんの記念講演などが行なわれました。

基調報告は、十菱駿武全国ネットワーク代表が「戦争遺跡の現状と課題2004」と題し、戦

跡の調査と保存運動について各地での取り組みを報告。戦跡の文化財指定と登録の拡大について、指定と登録が96件になったこと。戦跡の破壊・消滅について各地の実態。まちづくりと戦跡の保存活用では、館山市や知覧町、南風原町などの先進自治体の例に学びながら、戦跡の公開・活用法を民間から提案することの必要性を提起されました。地域報告は、館山市教育委員会の杉江係長が、市内に残された数多くの戦跡の調査から「館山歴史公園都市」構想への展開について、さらに「赤山地下壕」の保存・公開までの経過を報告されました。分科会報告は、第一分科会で「松本強制労働調査団の現状と課題」と題し、松本強制労働調査団の小島十兵衛さんが報告。第2分科会で「松代大本営皆神山地下壕の調査」と題し、調査団の縣重夫、十菱駿武、平川豊志の皆さんが其々の立場から報告されました。特に平川さんの地質調査の報告には、ほお！という声があがりました。この皆神山の調査は、全国の保存運動のなかで独自の調査がむづかしい団体でも、ネットワークの専門家の人たちの力を借りて調査が出来る方法を示唆したものとして注目をあびました。

地元実行委員会の主催で行なわれた特別分科会は、1日目は「女性の目から見た平和」、2日目は「証言者のつどい」として7名の報告がありました。どなたのお話も素晴らしく「全体会で取り上げたら」との意見もでていました。

記念講演は、東京大空襲戦災資料センターの早乙女勝元さんが「平和の語り部としての戦争遺跡」と題し、「過去の戦争を弱者の立場で語り継ぐことが戦争の阻止につながる」と語られました。

大会の最後に「あらゆる戦争に反対し、戦争の真実を語り継ぐため戦争遺跡保存の運動をさらにすすめましょう！」の大会アピールを採択して終了しました。

館山大会は地元「NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム」のメンバーを中心に100名をこえる人たちに支えられ成功しました。シンポジウムに参加していただいた皆さん有難うございました。

(平和資料館きぼうの家 ホームページより:
<http://homepage3.nifty.com/kibonoie/isikinituto.htm>)

出版物など

- * 「続・長崎にあって哲学する」高橋眞司 著、北樹出版 2004年
- * 「広島平和科学」26 広島大学平和科学研究センター 2004年
“米口戦略核削減と「備蓄」問題 いわゆる「モスクワ条約」の意義を考える” (山田浩著) など
- * 「人間の安全保障論の再検討」(広島大学平和科学研究センター編) 研究報告シリーズ No. 31
- * 「グローバル時代の平和学」日本平和学会設立 30周年記念出版 法律文化社 全四巻 各2625円
- * 「日本の戦争遺跡」戦争遺跡保存全国ネットワーク編著 平凡社新書 2004年

¥1200

- * 「細菌戦と現代」: 年5回発行

¥2000

裁判の案内、731部隊関係の資料の紹介など掲載。郵便振替口座: 00110-4-86543

731細菌戦裁判キャンペーン委員会
インターネットで「731部隊細菌戦国家賠償請求裁判」と検索してください。

Tel & fax: 048-985-5082

- * ナヌムの家・日本語版は、次のホームページで読むことができます。

<http://www.nanum.org/jap/index.html>

- * Peace あさかわ

1997年、八王子において、浅川地下壕などを戦争の傷跡を残す貴重な史跡として残し、そこを、過去の戦争の実相を知り、将来の平和の実現をめざすための学習の場とする、そうした願いをこめて、浅川地下壕の保存をすすめる会が設立されました。その会報を、次のホームページで見ることができます。

<http://park21.wakwak.com/~asakawa/>

- * 「伊江島通信」

ヌチドゥタカラの家の感想や、阿波根昌鴻語録などが載せられています。

わびあいの里発行

〒905-0502 沖縄県国頭郡伊江むら東江前2300-4

Tel: 0980-49-3047 Fax: 0980-49-5834

また伊江島の人々の記録写真と沖縄平和運動の父、阿波根昌鴻さんの言葉を加えた2005年カレンダーが製作・発売されています。

す。

連絡先：映像文化協会

Tel: 045-981-0834. Fax: 045-981-0918

eizobunka@r5.dion.ne.jp

* ビデオ：上記の映像文化協会から、「教えられなかった戦争・フィリピン編」「教えられなかった戦争・沖縄編」など、出されています。

* Let's

例えば、旧日本軍の遺棄兵器、中国人強制連行、強制労働、パレスチナでの人権侵害などの記事が掲載されています。(2003年12月号)

日本の戦争責任資料センター発行

Tel: 03-3366-8261 Fax: 03-3366-8262

* 憲法を海外に英語で紹介するのに、法学館憲法研究所の英文ホームページが充実しています。

<http://www.jicl.jp/english/index.html>

法学館憲法研究所事務室長、大川仁氏より

Tel: 03-5489-2153 Fax: 03-3780-0130

* 国立公文書館

アジア歴史資料センター

<http://www.jacar.go.jp/>

* “The Power of Protest” by Lawrence S. Wittner in Bulletin of the Atomic Scientists July/August 2004

ニューヨーク州立大学の歴史学教授のローレンス・S・ウィットナ氏の論文「反核運動の力」によると、広島と長崎に原爆が

投下されて58年間核兵器が使用されなかったこと、核保有国で軍縮の努力がなされてきたのは、世界の反核平和運動があったからである。しかし冷戦が終わった後、反核運動が弱まり、その結果アメリカは再び新しい核兵器の開発を計画している。このことがマスコミで報道されない中、反核平和団体は多くの人々にこのことを知らせるべきである。核軍縮の運動が高まってこそ、核戦争を予防することができるのである。

(この論文を読み、世界の反核平和運動が軍縮に与えた影響が非常に大きかったこと、また平和博物館が果たす役割が大きいことを改めて感じました。山根和代)

平和をはこぶ風になろう

西森茂夫さんを偲ぶ

平和資料館「草の家」副館長 玉置啓子

平和資料館草の家館長西森茂夫さんが8月21日亡くなりました。西森館長は10年前に肝硬変にかかってから、病氣と闘いながら平和のために活動してきましたが、昨年以來病状が悪化し、入退院を繰り返す日々となり、家族や多くの人の願いもかなわず、帰らぬ人となってしまいました。

10月10日高知市の男女共同参画センターソーレで「平和を運ぶ風になろう～西森茂夫さんを偲ぶ会」が、草の家メンバーによる実行委員会の主催で開かれました。会には高知県内外、遠くは北海道や九州から、また韓国からも平和運動、環境問題に関わる人々や文化、芸術、教育関係の人々、また教師時代の教え子や同僚、友人等400名近くが参加しました。また中国、イギリ

ス、ドイツ、オランダ、イタリア、アイルランド、コソボ等海外の平和博物館や平和活動家から多数のメッセージが寄せられました。

会場には白樺や野の草花を使って森をイメージした祭壇と、にこやかな西森館長の遺影が飾られ、西森館長が作詞した「風になろう」の曲が流れるなか、友人の牧師が「大地に帰る営み」を行い、全員が祈りを捧げました。

そのあと、西森館長の生涯と多方面にわたる業績が映像、音楽、ナレーション、メッセージで構成され紹介されました。

平和運動の原点と空襲展

西森館長の生涯を貫いた思想はすべての生命を大切にすることでした。弱い者の立場に立って、どんな人をも受け入れ、平和を目指しひたすらに歩んだ生涯でした。

大学時代には日米安保条約改訂反対の闘いに「札幌キリスト者平和の会」を組織して参加、平和運動に身を投じる原点となりました。

教師となってからは、学校の民主化と生徒達への平和教育に取り組みました。

西森館長がめざした市民一人一人が自主的に集まる運動、地域に根ざした平和運動が高知空襲展でした。

高知空襲の犠牲者を調査し、資料を収集し、展示する高知空襲展の活動は今年で26年目になり、その地道な取り組みの成果がついに今年2004年高知市による空襲犠牲者名簿の作成と記念碑の建設実現に実りました。西森館長は病床でそのニュースを見て万感の思いに迫られたことでしょう。

高知空襲展は、多彩な平和の催しを集め

て平和の文化を創造するピースウェイブの運動に発展しました。

草の家の建設と独創的な活動

高知空襲展を続ける中で、西森館長は資料収集や、市民の自由な交流の場としての平和博物館の必要性を強く感じ、自宅を取り壊して私財を投じ、1989年11月民営の平和資料館草の家を建設しました。

草の家は戦争と平和に関する資料の展示、保存だけでなく、平和や環境問題、平和の文化創造に関する多彩な活動の拠点ともなり、様々な人が訪れ、世界からも注目される独創性を持った平和博物館となりました。

世界平和博物館のネットワークも広がり、西森館長の独創的なアイデアが多くの国の平和活動に影響を与え、海外からたくさんの来客を迎えています。

西森館長は戦争における日本の加害責任を明らかにするため郷土部隊の日中戦争における罪業を調査する「中国平和の旅」を1991年から1998年まで6回行いました。それらの証言をブックレットとして出版したり、中国人戦争被害者の裁判の支援にも精力的に取り組みました。

憲法の森と榎村浩

西森館長の思想のもう一つの柱、それは自然と平和の有機的結合という視点です。環境破壊は現代のもう一つの戦争、目先のことにとらわれず千年先を考える思想として、西森館長は憲法9条を100万本の平和の木を植えるという構想として憲法の森作りにとりくみ、1995年3月19日高知県大豊町立川に憲法の森1号を誕生させまし

た。

また憲法9条を世界に広めようと12カ国語に翻訳したカードを作り、各国元首はじめ、世界の友人達に送りました。

西森館長は郷土の先人にみる自由、民主主義、平和、抵抗の思想を研究、発掘し世に紹介する仕事でも大きな成果を残しました。ライフワークとも言える革命詩人槇村浩の詩集を出版、槇村の番組製作のため来高した韓国テレビ局のインタビューを西森館長は最後の病床で受けましたがそれは、あたかも平和のための遺言のようでした。

アメリカのイラク攻撃に抗して

2001年アフガンへのアメリカの攻撃から、2003年イラクへの攻撃、それに追従する小泉政権の軍事路線に危機感を持って、西森館長はこの間、悪化する病魔と闘いながら、文章を書き、人々と語り、集会へ出かけ、街頭にも立って最後まで力を振り絞って戦争を批判し続けました。しかしそこには、不思議な穏やかさが漂っていて、お見舞いに行った者が館長から逆に希望をもらうような雰囲気すらありました。

平和をはこぶ新しい風を起こそう

西森館長には本当にまだまだ長生きして平和やよりよい世界のために活躍してほしいかったです。でも、亡くなられた今もいつもどこかで静かに見守ってくださるような気がしてなりません。館長の作った歌、「風になろう」のとおり、西森館長は風になって、私たちの周りを吹き抜け、地球のあちこちへ吹いていって平和を愛する人々の心を届けてくださっているような気がし

ます。

私たち草の家のメンバーは西森館長が結んでくれた人と人とのつながりを大切に、平和をはこぶ新しい風になりたいと希っています。

平和記念碑建立：高知市

戦後59年目の7月4日、高知大空襲の日、高知市に高知空襲の犠牲者名簿を納める平和記念碑が建立され、高知市主催の追悼集会が行われました。犠牲者総数は435人と高知市で集計しています。「高知・空襲と戦災を記録する会」や平和資料館「草の家」などが中心になり、四半世紀にわたって行ってきた平和を求める市民運動が実を結んだものです。

平和記念碑のデザインを決める際、海外に協力を求めた結果、イタリアのミラノにある平和記念碑の写真とアメリカ各地にある平和記念碑の写真が送られてきて参考にしました。



平和博物館国際シンポジウムの報告

6月19日に立命館大学国際平和ミュージアムで、平和博物館国際シンポジウムが開催されましたが、その報告は2005年3月発行の紀要で詳しく載せる予定です。

国際平和研究学会：ハンガリー

山根和代

7月5日から9日までハンガリーのソブロンで、国際平和研究学会の大会が開催され、40カ国から250人が参加しました。

平和教育分科会では、京都教育大学の村上登司文氏が「戦争に関する教育の影響：平和博物館と軍事博物館の比較」、そして私が「日本の平和博物館の現状と課題」と題して、発表をしました。平和博物館が平和教育をする場として、非常に良いという認識が高まってきているようです。

その後、オーストリアのシュライニングにある平和博物館を訪問しました。平和、環境問題、身近な紛争解決、平和主義者の展示、異文化理解など、興味深い内容でした。女性で初めてノーベル平和賞を受賞したオーストリア人女性作家でヨーロッパ平和運動の母と言われているベルタ・フォン・ズットナーのノーベル平和賞受賞百周年記念行事が、来年5月にオーストリアで開催されます。現在彼女の小説「武器を捨てよ」(1889年出版)を私を含めて5人で、日本語に翻訳しています。ズットナーに関する展示を将来、日本で展示しようとする動きがあります。もしそれが実現すれば、日本各地の平和博物館で展示できることを願っています。



オーストリアのシュライニングにある平和博物館に展示されている少女。舌を出して、あいさつをしています。異文化を理解する重要性を示しているそうです。

おことわり

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任でかかれたもので、平和のための博物館・市民ネットワークの事務局や編集者の見解を、必ずしも示すものではありません。

原稿募集

英文の *Muse* を12月に海外の平和博物館に発送します。日本各地の平和博物館、資料館などのニュースを載せますので、「草の家」に原稿や資料を 11月末までに送って下さい。

780-0861 高知市升形9-11

「草の家」国際交流部 山根和代

Tel: 088-875-1275 Fax: 088-821-0586

GRH@ma1.seikyou.ne.jp

<http://ha1.seikyou.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/> (このホームページで、ミューズ

と英文 *Muse* を読むことができます。)